



恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区

防災計画

～ 令和5年度改定版 ～

概要版

岩村ではどんな災害が起こる？

「岩村の問題点」をしっかり知って、防災に取り組もう

もし火災が起こったら・・・

本通り地区でもっとも怖い災害は火災です。全町が焼けてしまう大火は起きていませんが、それでも火災はたびたび経験しています。経験者からこうした体験談を聞いたり、火災になったらどうなるかを日頃から考えたりして、地区の問題点を把握しておきましょう。

岩村の問題点

家の裏手から火が出やすい

家の裏手は台所などがあり、火が出やすい場所です。また本通り地区の敷地は奥行きが深いため、家の裏手で出火した場合、気がつくまでに時間がかかるおそれがあります。

大声で叫んでも なかなか聞こえない

例えば、本通りで「火事だ」と叫んでも、敷地奥に寝ている人には、なかなか声が届かない可能性があります。



奥行きがある本通り地区のまちなみ
家の裏手からの出火に注意！

逃げ道が2方向にとれない

逃げ道が一つふさがれても、もう一つの経路で逃げられる。それが2方向避難の原則です。

本通り地区には、敷地裏に道路が無いなど、2方向避難が難しいお宅があります。



町内で集まり、自分の家からの逃げ道を地図で確認

火災発生！どうする？

[基本的な行動の流れ]

1

回りに知らせる！
すぐに通報する！

大声や大きな音を出して 近所に知らせる

1人で消そうとせずに、大声や大きな音を出して火事を知らせ、近所に助けを求めましょう。

119番通報する

小さな火だからと油断するのは絶対にいけません。消火の準備をして、家族や近所に通報を頼みます。

家族の安否確認

家族の状況を確認します。

2

すばやく消す！
出火後3分間が勝負

消火器で消す

3分以内が目安です。日頃から消火器の置き場所や使い方を充分に把握しておきましょう。

水で消す

油や感電の恐れがないものには、バケツなどで水を一気にかけます。

手近なもので消す

座布団でたたき、毛布でおおって空気を遮断するなど、危険のない範囲で消火を試みましょう。家族や近所と協力しましょう。

3

早く逃げる！
炎が自分の背丈を超えたら無理せずに

人命優先

天井に燃え移ったり、他の場所に火が移ったりしたら、すぐに逃げましょう。無理は禁物です。

姿勢を低く煙を吸い込まない

煙を吸ったりやけどしたりしないよう、部屋を離れます。普段から逃げ道を相談しておきましょう。

あせらず、あわてず

けがをしないように、あわてず、すみやかに避難します。近所への延焼を防ぐために協力しましょう。

起こったらどうする？



もし地震が起こったら・・・

江戸時代の記録には、岩村でもたびたび地震が起こったことが記されています。岩村にも地震がくる可能性はあります。地震に対しては、火災のときとは違った対策が必要になります。岩村に地震がきたらどうなるか、考えてみましょう。

岩村の問題点

岩村にも断層があり、地震が起こる可能性がある

本通り地区にも活断層があります。活動は停止していますが、地震が起こる可能性があります。海洋性の地震の可能性も指摘されています。

※ 文部科学省・地震調査研究推進本部では、岩村町に起きる地震は震度4～5強と予測しています。ただ、想定を超える規模の地震が起きるおそれもあり、十分な備えが必要です。

建物の本来の強さを損なう改修

伝統的工法による木造歴史的建造物は、長い歴史の中で地震や火災に強い工法を培ってきました。

こうした特性を無視した改修や手入れ不足は、建物本来の強さを損なってしまいます。

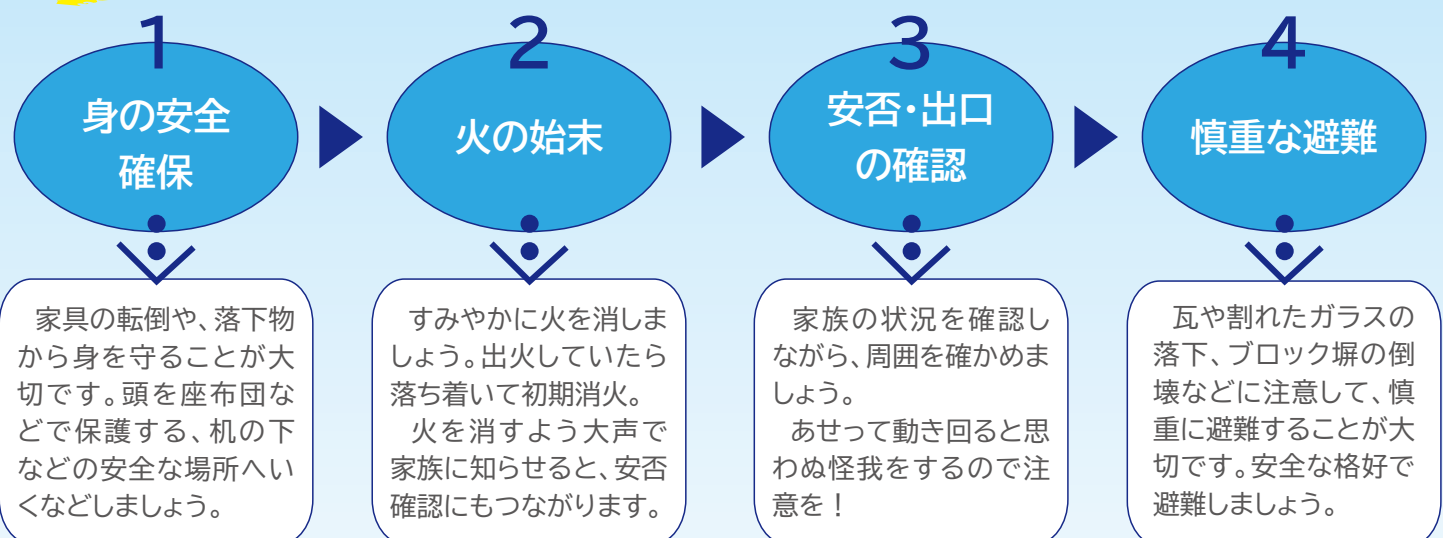
恵那市では、伝統工法の歴史的建造物が本来持つ耐震性や防火性能を受け継ぐため、改修やメンテナンスのマニュアルを作成しました。



防災・住まいの点検マニュアル

大地震発生！どうする？

[基本的な行動の流れ]



水害や土砂災害にも備えよう

本通り地区は過去に水害や土砂災害にも見舞われています。河川改修により、水害の危険性は減りましたが、火災や地震の備えと同様、日頃から災害時に役立つものを探したり、過去の被害の様子を聞いたりして、弱点を把握しておくことが重要です。

1. 防災計画の目標

- …➤ 災害から、人の命と豊かな暮らしを守ります
- …➤ 歴史的なまちなみとその中に息づく豊かな文化、生活の知恵を継承し、次世代の豊かで魅力ある暮らしや新たな文化を創造します。



2. 防災計画の基本方針

受け継がれてきた歴史的資源を防災資源として評価し、活用する

本通り地区は、長い歴史の中で防災に役立つ様々な資源や知恵を培ってきました。多くの歴史的資源が、まちの魅力資源であると同時に防災資源としても評価できるものです。

有形無形の防災資源を、住民と行政が協力して再発見し、さらに活用していくことにより、まちの防災力を高めるとともに、魅力向上にもつなげます。

広い道路や広場、川で囲まれた「ブロック」単位で防災まちづくりを進める

広い道路や広場、川などは、火災の延焼を食い止める効果があります。本通り地区はこれらで囲まれたいくつかのブロックに区分できますが、こうしたブロックは、住民同士の結びつきが強い町内から構成されています。ブロック単位で火災の発生を抑え、延焼を食い止めるなど、協力して防災まちづくりに取り組み、効果的に防災性能を向上させていきます。

住民主体の防災の取組を、家庭や近所、町内単位で育てる

防災の最大の担い手は住民の皆さんです。かつては夜回りなどの活動が盛んでしたが、最近は状況が変わっています。そこで、住民が日頃から防災意識を持つように、行政からも注意喚起に努め、住民主体の防災活動の活性化を支援します。自治会などの町内単位で自主防災組織をつくるなど、防災まちづくりを進める体制を整えていきます。

防災を契機に、魅力や賑わいを生み出すまちづくりへ

住民の人命、暮らし、文化を守っていく取組は、防災にとどまらない総合的なまちづくりへと広がります。例えば、天正疎水を防災資源として整備活用することは、単に水利の確保に寄与するだけではなく、景観などの魅力やうるおいづくり、それを活かしたまちの活性化にも結びつきます。防災課題の解決がまちづくり課題の解決にもつながるよう努めます。

まずはできることから取り組む ～段階的な防災まちづくり～

本通り地区にある防災の知恵や住民の結びつきは、長い歴史の中でじっくりと、確実に培われてきたものです。防災まちづくりの取組は、拙速に進めるのではなく、できることから段階的に「小さな目標」を決め、着実に成果をあげていくことが重要です。住民の皆さんが楽しみや喜び、達成感を味わいながら活動を継続し、徐々に輪を広げていけるような防災まちづくりを進めます。

防災計画を改定しました

3. 防災計画の枠組み

災害時の取組 (発生順に)	取組の対象	地 震 (+地震に伴う火災)	火 災
予防	建築物・敷地	倒壊防止	出火防止
初動対応		家屋内延焼防止	家屋内延焼防止
		早期発見・早期通報 (電気設備に頼らない)	早期発見・早期通報
	ブロック 火災の延焼をくいとめる広い道路や広場、川などで囲まれた範囲	初期消火 (水道設備に頼らない)	初期消火
人命救助		人命救助	
近隣延焼防止		近隣延焼防止	
地区延焼防止		地区延焼防止	
避難～敷地外へ (倒壊物を避ける)		避難～敷地外へ	
避難～ブロック単位で (倒壊物を避ける)		避難～ブロック単位で	
避難～避難場所へ (倒壊物を避ける)		避難～避難場所へ	
被災後避難生活 (集団の避難生活)		被災後避難生活	
地区全体		防災訓練・防災教育	
		防災まちづくりの推進	
	総合的なまちづくりの推進		
避難生活			
防災まちづくり の推進			

取組の主体	個人や家庭	町内・自主防災組織等	行政
倒壊防止・出火防止	◎	○	○
早期発見・早期通報	◎	◎	○
初期消火	◎	◎	○
人命救助	○	◎	◎
延焼防止	○	◎	◎
避難	○	◎	◎
避難生活	○	◎	◎
防災まちづくり	○	◎	◎
総合的なまちづくり	○	◎	◎

◎：特に重要な役割を果たすもの

恵那市や岩村町全体の防災について総合的に計画した「恵那市地域防災計画」、「岩村地区防災計画」とあわせて、防災の取り組みを推進します。

1. 継続する取組

平成 16（2004）年度の防災計画策定時や、平成 22（2010）年度の改定時から続いている取組です。これからも、まちの最新の状況や住民の皆さんの声を反映させながら、続けていきます。

- ① アナログ通報手段の普及の推進
- ② グループ通報設備の導入
- ③ 水利不足箇所の現状確認
- ④ 岩村川からの取水の推進
- ⑤ 天正疎水の整備・活用の推進
- ⑥ 土蔵の修復支援および延焼抑制帯構築の推進
- ⑦ 定期的な要援護者の情報把握
- ⑧ 耐震補強の推進
- ⑨ 防災体制の確立に向けた取組の推進
- ⑩ 消防署・消防団と連携した防災訓練の実施



2. 早期の実現を図る取組

これまでの取組によって、実現に向けた基盤が整ってきている事柄については、今後の取組につなげることを目指して、早期の実現を図ります。

- ① 住民に向けた防災設備等の情報提供
- ② 防災マニュアルのオンラインでの公開・オンラインを活用した情報発信
- ③ 設計者・職人等に向けたマニュアルの作成・勉強会等の開催



これからも取組を続けます！

3. 検討しながら取り組むこと

住民や在勤者、行政、その他の関係者が話し合い、最適な進め方を検討しながら取り組んでいきます。

- ① 避難路の確保
- ② 避難時の一時たまり場所の整備
- ③ 地域の実情に即したコミュニティづくり
- ④ 観光客に向けた防災の取組
- ⑤ 設計者・職人ネットワークの構築



岩村の近年の防災まちづくり年表

- | | |
|-----------------------|--|
| 平成 17 年度
(2005 年度) | ●【ワークショップ①】「防災まちづくりのすすめ」をつくろう！
●「防災まちづくりのすすめ（初版）」の発行
● 防災資源としての土蔵の分布調査 |
| 平成 18 年度
(2006 年度) | ●【ワークショップ②】地震や火災に強い住まいを考えよう！
● 土蔵修理事業の開始
●「住まいの点検マニュアル」の発行 |
| 平成 19 年度
(2007 年度) | ●【ワークショップ③】避難路マップづくり
●「住まいの点検マニュアル（追補版）」の発行 |
| 平成 20 年度
(2008 年度) | ●【ワークショップ④】災害時要援護者の救出計画マップづくり
● 二号消火栓の設置開始 |
| 平成 21 年度
(2009 年度) | ●【ワークショップ⑤】「グループ通報」を考えよう！ |
| 平成 22 年度
(2010 年度) | ●【ワークショップ⑥】身近な防災への取り組みを考えよう！
● グループ通報システムの導入
●「上町まちなか交流館」の整備開始
● 防災計画の見直し作業 |
| 平成 23 年度
(2011 年度) | ●「上町まちなか交流館」が開館 |
| 平成 25 年度
(2013 年度) | ● 電線地中化を実施 |
| 令和 5 年度
(2023 年度) | ● ブロック単位の防災ワークショップの開催
● 防災計画の改定 |





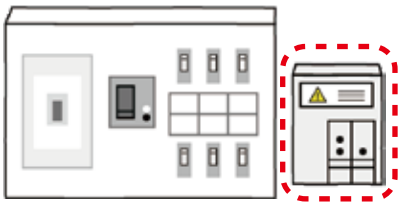
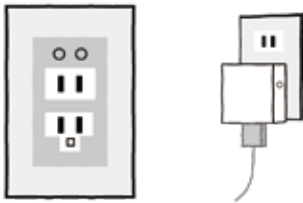
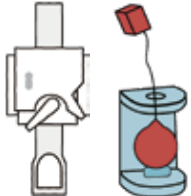
自宅でできる取組を続けていこう！

岩村では、防災計画の策定をきっかけに、家庭での取組も進みました。これからは、最新情報を集めたり、取り入れた設備のメンテナンスに注意したりといったことも大切になってきます。

ここでは、令和5年度のワークショップで特に関心が高かった取組を少しだけご紹介します。

① 感震ブレーカーを設置しよう！

感震ブレーカーは、一定以上の揺れを感知すると、自動的にブレーカーを落として電気を止める器具です。地震の際、停電からの復旧時にショートして起こる火災や、電気ストーブの近くに可燃物が落ちて起こる電気火災を防ぐのに役立ちます。

タイプ	分電盤タイプ		コンセントタイプ		簡易タイプ
	内蔵型	後付型	特定機器遮断型	一括遮断型	
イメージ					
しくみ	分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。		ばねの作動やおもりの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
遮断範囲	屋内すべて		屋内すべて	設置した機器のみ	屋内すべて
電気工事	必要		不要	必要	不要
大体の価格	約5万円～8万円 (標準的なもの)	約2万円	約5千円～2万円		3千円～4千円程度

※ 感震ブレーカーは、家電量販店やホームセンター、通販サイトなどで購入できます。

参考：消防庁発行リーフレット

https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/assets/271207_jimurenraku.pdf

② 住宅用火災警報器（住警器）を点検・交換していますか？

設置後は、正常に作動するかどうか定期的に点検しましょう。交換の目安は10年です。

参考：消防庁ホームページ <https://www.fdma.go.jp/relocation/html/life/juukei.html>

このほかにも、自宅でできる防災の取組に関する情報を、防災計画資料編でご紹介しています！